

私立大学研究ブランディング事業
創薬化学により人類の福祉と健康に貢献する東京薬科大学
～健康社会の実現に向けた創薬化学の展開と人財育成～

の一貫でもあります

公開セミナー 大学院生命科学研究科「細胞神経生理学特論」
特別講義

「ES/iPS 細胞を用いた成育医療研究基盤の構築～幹細胞の基礎から
臓器創生の応用まで～」

国立研究開発法人・国立成育医療研究センター

再生医療センター・生殖医療研究部

部長・阿久津 英憲 先生

5月 1日 (火曜日) 11時10分～12時40分 2101講義室

成育医学・医療は、受精から始まり、発生・発育し次世代へつながる「人のライフサイクル」に関連する様々な健康問題を包括的に捉える領域である。成育期には有効な治療法がない疾患が多く、診断・治療法開発の基盤構築は喫緊の課題である。

そこで、まず、あまたある幹細胞の捉え方を整理しつつ、多能性幹細胞 (Pluripotent stem cells) である ES 細胞と iPS 細胞の研究開発の世界的な現状を概説する。くわえて、難治性腸疾患を例に、複雑な創薬工程へ新たなバイオテクノロジーとして貢献できるか、ES 細胞/iPS 細胞を応用した” in vitro” 臨床試験の研究基盤開発を紹介する。

連絡先：生命科学部・分子神経科学研究室・山内淳司 Tel：042-676-7164

